

（３）児童生徒の実態に応じた多様な“選択肢”と“自己決定”を意識した教育活動の推進

不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。また、不登校とは、多様な要因・背景により、結果として不登校状態になっているということであり、その行為を「問題行動」と判断してはならない。さらに、不登校等児童生徒については、個々の状況に応じた支援を行うことが必要であり、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒や保護者の意思を十分に尊重しつつ、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。また、支援においては、一斉指導を前提としたカリキュラムだけではなく、児童生徒の実態に応じた多様な選択肢と自己決定の機会の提供を意識した教育活動を推進していくことが必要であり、支援を通じて表れる児童生徒の好ましい変化を、見逃すことなく十分に捉えていくことが重要である。

ア 不登校ＳＳＲ（スペシャルサポートルーム）推進校における取組

本県においては、令和元年度から学校内にスペシャルサポートルーム（以下、ＳＳＲという。）を設置し、不登校等児童生徒への支援の充実に向けた取組を進めており、県内の公立小・中・義務教育学校の中から指定した不登校ＳＳＲ推進校（以下、推進校という。）において、不登校、不登校傾向及び特別な支援が必要とされる児童生徒に対する個の状況に応じた計画的、組織的な支援の充実・強化に取り組んでいる。

（ア） 組織的な学校体制の構築

推進校では、不登校等児童生徒支援コーディネーター（以下、支援 Co という。）を校内組織に位置付け、ＳＳＲの計画的な運営とともに、チームとして支援を行う体制を構築することにより、新たな不登校を生じさせない支援及び不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を進めている。

ａ アセスメントに基づく個の状況に応じた計画的な支援

不登校等児童生徒の社会的自立を支援していくためには、一人一人の状況をアセスメントし、適切な目標を立て、個に応じた支援計画等を作成していくことが必要である。推進校では、個々の状況やその状況に至っている要因を探るとともに、個々の状況等を踏まえた長期目標・短期目標や具体的な手立てを記載した「個別サポート計画」（図 6）を作成している。

＜個別サポート計画＞

個別サポート計画は個の状況、本人・保護者の意向等を踏まえて、長期目標、短期目標を設定し、具体的な手立てを計画する。なお、計画については、支援者の共通理解や、児童生徒、保護者との合意形成を図る必要がある。

不登校等児童生徒支援会議において、支援や評価を検討・協議する際の資料とし、日頃の支援に活用する。

令和8年度 個別サポート計画

	学年 組	氏名	学級担任名（作成者）
児童生徒の状況	状況	○ 小学校第●学年の2学期より欠席が目立ち始める。 ○ 小学校第●学年の後半はSSRを利用し、ほとんど在籍学級に行くことはなかった。 ○ 今年度は本人が「安心できる」という友達が一緒に学級のため、教室で過ごす時間が増えている。 ○ 教室での生活のしづらは「たくさんの人の中で生活すると疲れる」と言う。	
	合理的配慮	○ グループ活動は少人数から始める。 ○ 体育や集会では、参加方法を本人と相談して決める。	
	関係機関 (診断名等)	放課後等デイサービス△△	
	その他	○ 中学校第●学年の兄が中学校へ登校しづらい状況にあるとの情報が中学校との連携で中学校の生徒指導主事よりあった。	
本人の意向	できそうなことは教室で活動してみたい	保護者の意向	登校日数が増えてほしい
長期目標	できそうなことを生かし、教室やSSRで学習できる。		
指導の実際			
開始日	短期目標 (行動内容)	手立て	評価 【いつ、誰が、 どこで評価するか】
○月○日	友達や学級担任を頼りながら、自分で参加できそうなものを選ぶ。	・学級での活動への参加を試みる機会をもつ。 ・活動内容は、朝の会、読書、プリント学習、友達と一緒に取り組める活動など、本人が選びやすいものから始める。	2週間後に、学級担任とSSR担当者がSSRで本人と振り返りを行い、参加できた活動や参加しやすかった条件を確認する。
○ 長期目標の達成に向けて、スモールステップで身に付けさせたい力を具体的に短期目標として示す。 ○ 本人の状況から短期目標を立て、それを達成するための手立てを考える。 ○ 評価については、できたか、できなかったかだけでなく、次の支援を決めるための材料になるような情報を集められるようにする。			

図6 推進校で活用している個別サポート計画（様式例）

b 学校全体で行うチームとしての組織的な支援

定期的に不登校等児童生徒支援会議を開催し、不登校等児童生徒の状況を共有するとともに、取組方針や具体的な取組方法等について個別サポート計画等を基に、「何を目的として、いつ、どこで、だれが、どのような」支援を行うのかについて十分に検討、協議する。参加者は、管理職、生徒指導主事、支援 Co、養護教諭、学級担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が考えられ、それぞれの専門性等に応じた多面的・多角的な視点から協議をし、支援における役割分担を行う。

推進校では、不登校等児童生徒支援会議を定期的に開催するために時間割に組み込んだり、最新の状況を日頃から共有できるよう電子データで管理したりする等の工夫をしている。

(イ) S S R の設置及び運営等

S S R において児童生徒に身に付けさせたい力を、右の二つの力と考えている。このような力を身に付けるには、S S R が

【S S R で育てたい力】

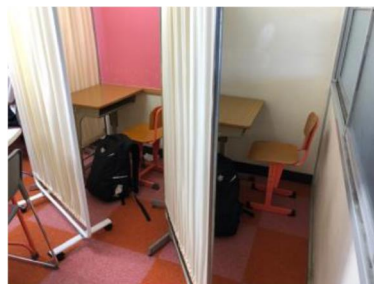
- 相談する力
- 自分の強みを知り、生かす力

児童生徒にとって安心感があり、支援者と相談した上で自らの意思で取り組むことを決定できるような場所であることが必要である。また、自分の特性を知り、困ったことがあれば相談ができ、得意な力を生かして成長することができる場となるよう支援を行っている。

a 安全であり、安心できる居場所とするための環境整備

不登校等児童生徒の心情や特性等に配慮し、学校や教室の雰囲気を意識しすぎない環境、周りの視線を気にすることなく入室できる場所への S S R の設置や動線の確保、また、S S R 内にリラックスできる場を設けるなど登校への嫌悪感を弱める S S R 内の環境整備を目指している。さらに、児童生徒が学習を進めるに当たって、その内容や方法、場所を自分で選択し、決定できるなど、安全であり、安心できる場所となっているか、利用する児童生徒とともに話し合いながらレイアウトを工夫している。

〈個別の学習と協働での学習の両立が可能なレイアウト〉



個別の学習スペースやグループで学習できる場を整備し、児童生徒が心の状態や学ぶ内容により選択することができるようにしています。

〈学校や教室の雰囲気を意識しすぎない環境づくり〉



ソファを置いたり、机にテーブルクロスをかけたりして学校や教室と違った雰囲気を創り出しています。

〈周りの視線を気にすることなく入室できる動線を確保〉



児童生徒の思いを聞きながら、外階段を利用するなど、周りの視線を気にすることなく入室できる場所へＳＳＲを設置しています。

b 多様な選択肢の提供と自己決定を意識した教育活動の推進

不登校等児童生徒の学習状況、興味・関心等に応じて、支援 Co と学級担任や教科担当教員等とが連携して多様な学びの選択肢を準備するとともに、不登校等児童生徒が学ぶ内容や方法、場所を主体的に選択し、自己決定して学びに向かうよう支援している。ＳＳＲでの学習支援においては、児童生徒の興味・関心を生かした学びをきっかけとして、継続した学びにつなげていくこと、自分の強みや苦手なところを意識させたり、他者と学び合う場を設定したりすることで自己理解を図っていくこと、さらに、これらの日々の活動に関しての児童生徒自身が振り返りを行うことで、活動時の自分を客観的にとらえることや教職員からの声かけによって、次の活動への動機付けにつなげていくことなどを大切にしている。

例えば、表中にあるように、「ＳＳＲ個展」と題して、児童生徒自身の興味・関心がある「世界の民俗衣装」について調べたまとめや、描いた絵画を展示し、ＳＳＲに来室した教職員や他者からの評価を得ることで継続した学びへつなげている。また、「先生お手伝いサービス」という活動の中で、請け負った仕事をやり遂げることや、「高校へ進学した先輩（ＳＳＲ利用）に学ぶ会」として、高校へ進学した先輩から高校生活の様子や中学校時代の思いを聞くことで、自分自身の得意や不得意など自己理解を深めたり、将来への展望を明確にする実践がある。

さらに、ＳＳＲという小集団の中において、体験活動等を実施するなど、

意図的に児童生徒相互が学び合う機会を設定した取組や日々、児童生徒が自身の活動を振り返り、その振り返りに教職員からのコメントを付すことにより、日々の成長を実感できる取組もある。

〈児童生徒の興味・関心等を生かした学び〉

SSR 個展について

SSR では、自己実現の一つとして日頃の活動の成果をまとめた個展を開くことになりました。先生方には、教室にきてもらい感想をいただければと思います。
日時：令和元年 10 月 4 日
場所：SSR 教室
内容：個人の作品の展示
※ぜひお越しください。



自分たちが興味・関心のあることについて、それぞれが調べ、自分なりの工夫をしてまとめました。また、SSR 個展として、先生方を招待し、調べたことの発表会を開催しました。教職員から、たくさんの「いいね」の評価をもらいました。

〈自己理解につながる取組〉

「先生お手伝いサービス」

教職員から仕事を募り、請け負った生徒が中心となり、見通しをもって仲間と協力しながら仕事をやり遂げました。

「高校へ進学した先輩（SSR 利用）に学ぶ会」

高校に進学した先輩（SSR 利用）の話を聞き、自分の目標をより明確にしたり、受験や高校生活への不安を解消したりしました。



〈児童生徒相互に学び合う場の設定〉



児童生徒相互が教え合う活動や関わり合い・協力が必要となる体験活動などを取り入れ、相互に認め合うことができるよりよい人間関係を築いています。

また、体験活動における様々な体験を自分が何に興味・関心があるのかに気づき、学びを広げていくきっかけとしています。

〈振り返りと教職員からの声かけ〉

児童生徒の振り返りに学校からコメントを返すことで、達成感を持ち、成長を実感することにつながっています。

教職員からのコメント

実際の下校時刻	14 時 23 分	14 時 55 分	15 時 45 分
1日の感想	計算を少し速く になりました。	いってこう計算を より速くした。	少し計算を速 くしました。
学校から	頑張ったね、あー れ、おめでとう。 お疲れ様です。	計算が速くなった ね、おめでとう。 お疲れ様です。	計算が正確で す。おめでとう。 お疲れ様です。

下校時刻
を記入

児童生徒
自身の振
り返り

(ウ) SSRにおける成果等の学校全体への普及

SSRにおける不登校等児童生徒への支援の考え方や方法等、その成果等については、SSR内での取組に留めることなく、学校全体の全ての児童生徒への支援に生かしていくことが大切である。校内研修等において、校内の全教職員がその趣旨等を十分に理解するとともに、安全・安心な学校風土・学級風土の醸成や個々の児童生徒の多様な学習状況や興味・関心に柔軟に応じた、児童生徒が「学んでみたい」、「分かった・できた」を実感できる授業づくりの推進に生かすことにより、新たな不登校を生じさせない取組の充実につなげていくことが必要である。

(エ) 中学校区としての一体的な取組の推進

不登校 S S R 推進校における取組は、推進校として指定された学校だけではなく、推進校と同一中学校区内の小中学校等が、校区内連携の充実、中学校区としての支援体制の構築、合同研修会の実施などを通じて、一体となった取組を推進している。

a 校区内連携の充実

推進校に配置されている支援 Co が、校区内の学校に、月 1 回程度訪問し、中学校区内の不登校等児童生徒への支援及び学級経営や授業改善に向けて支援している。

b 中学校区の支援体制の構築

不登校 S S R 推進校に設置している S S R を、校区内の小中学校等の児童生徒が利用できる運用を認めるなど、中学校区で一体的な取組を進めるための支援体制を構築している。

c 合同研修会の実施

学期に 1 回程度、定期的に中学校区内の学校が合同研修会や連絡会を実施するなどして、推進校の取組の成果等や支援方針等の共有化を図っていく。

(オ) S S R の周知及び成果等の発信

S S R を誰もが利用しやすい場所としていく観点から、設置の目的等について、校内の全教職員や利用する児童生徒・保護者のみならず、全校の児童生徒や保護者、教職員への理解を図っていくことが必要である。また、必要に応じて、中学校区内の児童生徒及び保護者、教職員等にも理解を図っている。

a S S R の周知

学校だよりや S S R 通信、学校ホームページ等を活用した推進校及び関係校の児童生徒及び保護者等への周知、また、長期欠席経験のある新入生及びその保護者に対する入学前や入学直後の S S R 見学会、教育相談等の実施などを通して、S S R の設置の目的等について理解を図っている。

b 取組の成果等の発信

S S R の設置による不登校等児童生徒への支援の在り方や成果等について、不登校 S S R 推進校連絡会議、教育センター専門研修講座（学びプラス）、「学びの変革」推進のための実践等交流会（マナビノラボ）などにおける実践発表等を通じて県全体への普及を図っている。

イ 県教育支援センター（SCHOOL “S”）による支援

県教育支援センター（以下、「SCHOOL “S”」という。）においては、令和 4 年度か

ら不登校等児童生徒が社会とつながる多様な居場所、学びの場の選択肢の一つとして、環境を一新するとともに、来室とオンラインの二つの支援方法において、支援プログラムを充実させることにより学びの質の向上を図っている。児童生徒は来室して利用することもできるし、自宅などからオンラインで利用することもできる。また、併用も可能とするなど利用方法も選択できることとしている。

	来室による利用	オンラインによる利用
曜日	火・木・金	火～金
時間	9時30分～14時00分	
内容	○ 個々の状況に応じた各教科等の学習 ○ ソーシャルスキルトレーニング ○ 体験的な活動（農作業・調理・スポーツなど） ○ 探究的な活動 ○ 児童生徒の企画による活動 など	○ 指導主事等による同時双方向型プログラム配信 ○ ソーシャルスキルトレーニング ○ 他自治体等との交流プログラム ○ 児童生徒が企画する活動 など

(ア) SCHOOL “S” における支援の在り方や考え方

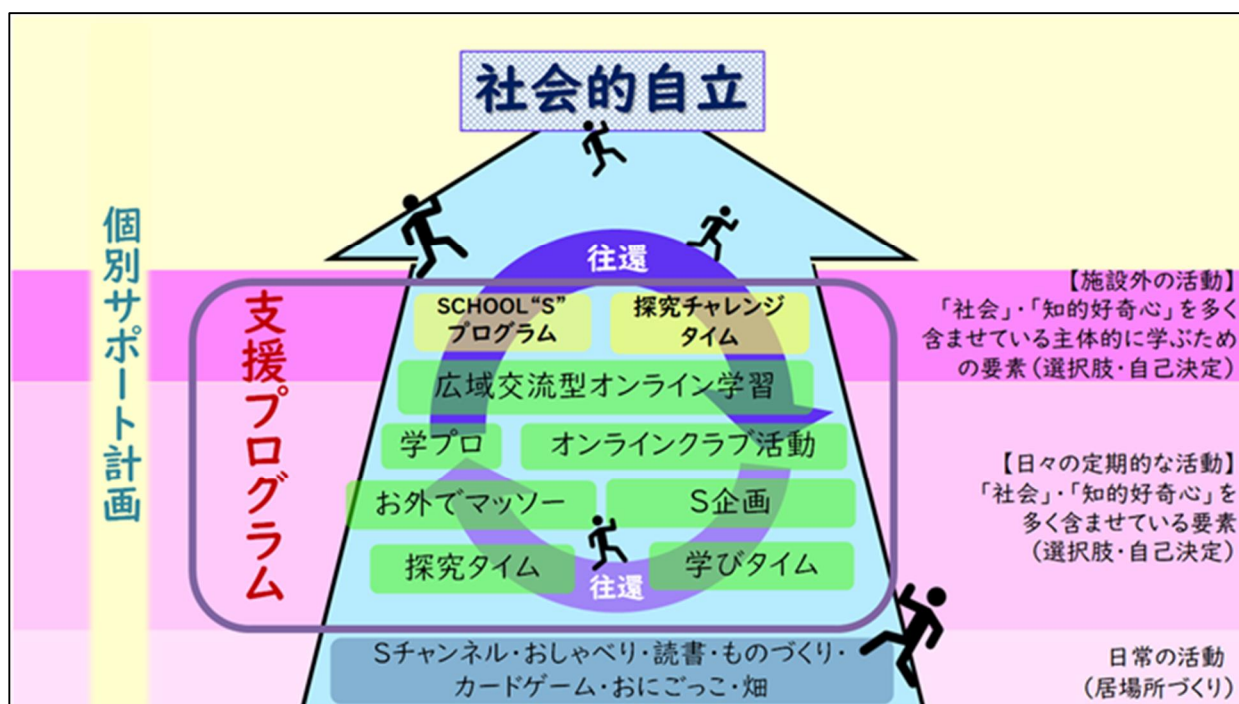


図7 SCHOOL “S” の学び

SCHOOL “S” では、利用している児童生徒の社会的自立に向け、興味・関心や目標に応じた様々な活動の中で、児童生徒が新しいことを発見したり、「できた」という達成感を感じたり、「もっとやってみたい」と挑戦したりできるようスタッフは伴走者として支援を行っている。

a 個別サポート計画の作成

SCHOOL “S” では、利用児童生徒を日々の活動の中でアセスメントし、個別サポート計画を基に個々の教育的ニーズに応じた支援を計画的かつ継続的に実施している。個別サポート計画があることで、いつ・誰が・どのタイミングで本人にアプローチするか、支援者全員が共通認識をもつことができ、支援の具体が明確になり、児童生徒の変容も見取りやすくなる。SCHOOL “S” での支援会議で個別サポート計画の内容を定期的に見直ししながら児童生徒の支援に当たっている。

b MY 時間割の作成に向けた支援

MY 時間割 ※ 併用利用の場合の例					
利用方法		来室	オンライン	オンライン	来室
曜日		火	水	木	金
1	9:30	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム	おはようタイム
	9:45 10:30	Cタイム	SCHOOL “S” チャンネル	学びタイム	SST
2	10:45 11:30	個別学習等 (教科書・問題集)	SCHOOL “S” チャンネル	学プロ・クラブ	個別学習等 (読書)
3	12:45	こんにちはタイム	こんにちはタイム	こんにちはタイム	こんにちはタイム
	13:00 13:45	個別学習等 (スポーツ)	学プロ・クラブ	SCHOOL “S” チャンネル	探究タイム
	14:00	じゃーねータイム	じゃーねータイム	じゃーねータイム	じゃーねータイム

選択・自己決定	
コンテンツ名	内容
おはようタイム	出席状況の確認や健康観察及び1日の過ごし方などを確認する。
こんにちはタイム	出席状況の確認や健康観察及び午前中で活動を終了する児童生徒の振り返りを行う。
じゃーねータイム	1日の活動の簡単な振り返りや今後の予定等を確認する。
個別学習等	児童生徒自身が自分で考えた学習や活動(読書、スポーツなど)を行う。
Cタイム (communication)	1週間の予定などを確認し、【MY時間割】を作成する。
SST (social skill training)	ソーシャルスキルトレーニング。 対人関係や集団生活を営みやすくなるための技能(スキル)を養う。
学びタイム	児童生徒の計画をもとに、個別もしくは集団で学習する。
学プロ・クラブ	県教育委員会が実施するオンライン学びプログラム・オンラインクラブ活動。興味・関心を同じくする小集団で楽しみながら学ぶ場や交流する場を提供する。
SCHOOL “S” チャンネル	リアルタイムオンライン配信プログラム(スタッフはMC等を務めます) ※ 全てのコマで配信
探究タイム	農業体験や調理、スポーツなど興味・関心に応じ、探究的な活動を行う。

図 8 自分の時間割(MY 時間割)の例

アセスメントに基づき、児童生徒の状況や興味・関心などを踏まえ、児童生徒による MY 時間割の作成の支援を行っている。MY 時間割で 1 日の予定を決めたとしても、気分の変化や周囲の状況などによって予定を変更する児童生徒もいる。その場合は、SCH00L “S” で育成したい力の一つである「相談する力」につながる場面と捉え、児童生徒にはスタッフに相談することを促し、スケジュールの再設定を行っている。

c SCH00L “S” の学びの具体

〈学びタイム〉

自学自習をしたり、遊び・ゲーム感覚で楽しみながら学ぶことができたりする時間。活動の中で生まれるひらめきや発見を大切にし、自分なりに考えたり試したりしながら学びを深める。

知的好奇心を高めるとともに、考える力や課題解決能力、主体的に学ぶ姿勢を育むことを目指している。



紙コップボウリングで
足し算マスター

〈探究タイム〉

自分の興味・関心にあったゼミを選択し、自分で問いを見付けたり、その答えを調べたり、試したり、考えたりしながら学びを深める活動。もの作りをメインとする「つく探」、自分について知る「ME♡探」、自分の推しを極めていったりする「推し探（オンラインで実施）」、フィールドワークを通して生き物や自然を探究する「生探」がある。

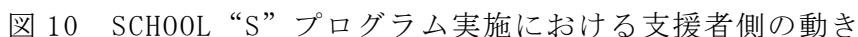


フィールドビンゴ
～春を探そう～（生探）



手作り輪投げで遊ぼう
（つく探）

令和6年度より、SCH00L“S”を利用する児童生徒に対して、体験を通して学ぶことと既存の知識や技能とを結び付ける学びの場を提供することで、知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力の育成を目指すことを目的としたSCH00L“S”プログラム（Sプロ）を実施している。



(イ) 学校・市町教育委員会との連携

児童生徒の所属校や関係する市町教育委員会と定期的に連携し、生活や学習の様子を共有している。また、県の指導主事による市町教育支援センターへの訪問や連絡会議の開催、オンラインプログラムの共有も行っている。

これらの取り組みを通じて、SCHOOL “S” と不登校 S S R 推進校や市町教育支援センター等との連携を強化し、不登校等児童生徒やその保護者にとって身近で安心できる居場所や学びの場を充実させることで、学びにアクセスできない児童生徒ゼロを目指している。

ウ ひろしまオンラインプログラムの実施

本県においては、令和3年度から不登校 S S R 推進校を対象に様々な機関・企業と共同し、児童生徒の知的好奇心を喚起し、学びの楽しさを感じられるプログラム（オンライン学びプログラム）、同じ興味・関心をもつ児童生徒が集まって、学び合ったり、語り合ったりするプログラム（オンラインクラブ活動）を開発、実施してきた。令和4年度からは、事前登録の上、県内全ての小中学校や教育支援センターから参加できることとしている。

令和8年度からは、「ひろしまオンラインプログラム」として、次の3種類のプログラムを実施している。

(ア) オンライン学びプログラム

毎月2～3回、広島県内の民間企業や公共施設、他の自治体と連携し、博物館や図書館の展示品やバックヤードを見学したり、地元企業とコラボして生産現場や商品開発の説明やキャリア教育の視点で職員の働く様子を聞いたりしている。

また、高校や専門校の学科説明会を通じて児童生徒の進路選択を支援するプログラムも配信している。

また、令和8年度からは県外の自治体と連携し、各自治体が配信しているオンラインプログラムを共有している。



ヒロシマ学
～明日へ、世界をつな
ぐために～

命をつなぐ！
～動物愛護センターの
日常 part 2～

シリーズ スタッフか
らの挑戦状
「ふじサンタの日記」

ミライクエスト
～進路とキャリアに関
するオンラインプログ
ラム～

図 11 令和 7 年度実施分フライヤー（一部）

（イ） オンラインクラブ活動

同じ興味・関心をもつ児童生徒が「作戦ミーティング」で内容や運営方法を計画し、その内容に沿った活動を月に一回程度実践している。

（ウ） 広域交流型オンライン学習

広島県では、令和 6 年度から広島大学教育ヴィジョン研究センター（EVRI）と東広島市教育委員会が連携して行っている広域交流型オンライン学習の配信を行っている。県内外の児童生徒と大学・関係施設等の担当者がオンラインで交流しながら社会や地域について学ぶことができる。

オンライン学びプログラムに参加した児童生徒の声

- 普段、行けないような場所について詳しく教えてもらえることは、特別感あってとてもうれしかった。もっと知りたい！
- 進学先のリアルな先輩の姿が見られたので、中学校卒業後の生活をイメージできた！早速、自分の希望する高校について調べてみました。



with 動物愛護センター



with 県立高等技術専門校
（授業での板金作業の様子）

オンラインプログラムを作るうえで大切にしていること

○ 安全・安心な環境づくり

安全・安心な環境を重視し、カメラやマイクのオン・オフは児童生徒が選択できることとし、発言や書き込みも強制していない。チャットの意見はできる限りスタッフが反応し、誰でも気軽に参加できる雰囲気を大切にしている。

○ 児童生徒一人一人の興味・関心

日頃関わる児童生徒の好きなことや得意なことなどのニーズを把握し、多様な分野のプログラムを配信している。

○ ファシリテーターの役割

プログラム進行の際には、児童生徒の意見を尊重し、人と人をつなげることを意識している。外部の専門家や社会との接点をもつことができるようやりとりを促し、児童生徒の世界が広がるようにしている。

○ 体験を通じた学び

オンライン上でも、体験を通しての学びと、既存の知識や技能を結び付ける学びをプログラムに取り入れている。

エ 不登校等児童生徒のサポートに関する資料の作成

(ア) 不登校等児童生徒サポートハンドブックについて

不登校等児童生徒だけではなく、全ての児童生徒への充実した支援につなげるためには、児童生徒の心身の状態を丁寧に見極めることが大切である。本サポートブックでは、本県が令和元年度から取組を進めてきた不登校 S S R 推進校や SCHOOL “S” の実践、ひろしま学びプログラム等の実施から得た知見を生かし、効果が高かったと考えられる事例とともに、児童生徒や保護者の相談先や教職員の研修に関する情報を掲載している。

また、児童生徒の「心のエネルギー」※をもとに、学校への登校が難しくなる前兆期から社会や集団の中で活動を始める活動期までの経過を段階的に示し、各段階における児童生徒の状態と支援の方向性を整理しているため、日常の教育相談や学級担任としての対応、校内での情報共有の際に、児童生徒理解と支援における校内の共通の視点として活用することができる。

※ 本サポートブックで示している児童生徒の「心のエネルギー」の変化については、あくまでの一般的な経過を示しており、全ての児童生徒が同じ経過をたどるわけではないことには留意が必要である。

全ての児童生徒の「学びたい」に応える

不登校等児童生徒サポートハンドブック

広島県教育委員会事務局 学びの推進部
個別最適な学び担当 不登校支援センター

電話や面談、オンライン(Web会議システム)を活用して相談することができます

● 心のふれあい相談室 (不登校およびいじめに係る相談)
県立教育センター
TEL 082(428)7110
月曜～金曜(祝日および年末年始を除く) 9時～16時

● 特別支援教育・教育相談部
県立教育センター
TEL 082(428)1188
月曜～金曜(祝日および年末年始を除く) 9時～16時

● こころの相談室 (学校や家庭、友達などに関する相談)
県福山庁舎第1庁舎内
TEL 084(925)3040
火曜～水曜(祝日および年末年始を除く) 10時～17時

● 不登校支援センター(不登校支援およびSCHOOL“S”の利用に係る相談)
県庁東館庁舎内
TEL 082(228)3500
月曜～金曜(祝日および年末年始を除く) 9時～17時

教育相談窓口紹介カード

学校からの相談をお待ちしています。

◆ 不登校の未然防止 及び 不登校等児童生徒支援に係るサポート ◆

◆ 独立行政法人教職員支援機構(NITS) 動画教材 ◆

◆ 県立教育センター専門講座(学びのパス) ◆

児童生徒の変容を見極めながら、状況にあったかわり方を考えていきましょう。

～ 一人で悩まずにチーム(管理職、生徒指導主事(担当)、特別支援教育Co、教育相談Co、養護教諭、SC、SSWなど)で支援 ～

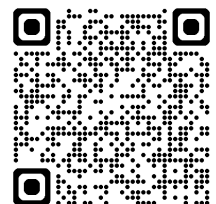
前兆期	充電期	安定期	活動期
朝、起きられないことが多い。 食欲が減る。学校へは行かず、保健室を頻りに利用するようになる。 学校 ↓ 児童生徒 学校 ↓ 保護者	イライラしているように見え、感情や行動のコントロールが難しい状況も見られる。 学校の話に拒否感を示す。 外出しなくなる。 など 学校 ↓ 児童生徒 学校 ↓ 保護者	自宅では落ち着いている。人と出会う、外出したりすると「疲れた」と訴える。 昼夜逆転の生活になる。 など 学校 ↓ 児童生徒 学校 ↓ 保護者	自分の趣味や好きなことに気持ちが向く。 活動への意欲が出る。 相談機関に通い始める。 など 学校 ↓ 児童生徒 学校 ↓ 保護者

安全・安心な環境の提供

理解してくれる大人の存在

心と身体への回復には一定の期間が必要です。「待つ」「見守る」という姿勢が本人を大切に思っているというメッセージとなります。

児童生徒の心の状態を判断する手立ての一つとして、「心のエネルギー曲線」があり、不登校等児童生徒がたどる一般的な過程とされています。ただ、この過程は個々の児童生徒によって異なり、心の状態の低下の程度や時間的な経過も様々であり、支援方法等も絶対的なものではないことに留意が必要です。



(イ) 不登校等児童生徒支援相談ガイドについて

不登校等児童生徒に対し、保護者や教職員など周りの大人がどのように関わっていけばよいのかを一緒に考える際に活用できるガイドブックである。本ガイドでは、子供への声かけのヒントや子供の状況に応じた居場所や相談先を紹介している。

不登校等児童生徒や保護者への支援に係る情報を一元化して示し、保護者と教職員が共有することで、子供や保護者の孤立を防ぎ、子供一人一人の状況に応じたきめ細やかな支援につなげることを目的としている。

保護者の相談に応じて、本ガイドを見ながら、児童生徒への関わり方や学びの場所、方法について、保護者と教職員が一緒に考えるという活用を想定している。

**相談窓口に
相談してみよう**

お子さんのために、まずは保護者の方の安心から。
一人で抱え込む前に、悩みに寄り添ったアドバイスを受けることができる
相談窓口にご相談しましょう。
広島県教育委員会・広島県の相談窓口をご紹介します。

相談窓口

心のふれあい相談室

不登校に関する情報提供を受けたり、必要に応じて関係機関を紹介してもらったりすることができます。
○不登校
○いじめ

相談日・時間

月曜日～金曜日 9時～16時
(ただし、祝日と年末年始を除きます。)

相談方法

電話 [来所]* オンライン
* 県立教育センター内 (広島市)
* 東広島市については、電話でお申し込みください。

連絡先

082-428-7110 (直通)

ホームページ

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/tokoro-no-fureai.html>

相談窓口

こころの相談室

いじめや不登校だけでなく、発達障害、非行・立ち回りなどの相談をすることができます。
○不登校
○いじめ
○発達障害
○非行・立ち回り

相談日・時間

火曜日～水曜日 10時～17時
(ただし、祝日と年末年始を除きます。)

相談方法

電話 [来所]*
* 福山庁舎第1庁舎内 (福山市)
* 東広島市については、電話でお申し込みください。

連絡先

084-925-3040 (直通)

ホームページ

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/tokoro-no-soudan.html>

相談窓口

特別支援教育・教育相談部

様々な不安、心配や悩みについて、相談ができます。障害のあるお子さんに関すること (診断の有無は問わない)、お子さんの心身の健康や成長発達に関すること、お子さんへの関わり方に関することなどの相談をすることもできます。
○学校や家庭における様々な不安、心配や悩み
○お子さんの障害のこと
○お子さんの心身の健康や成長発達のこと
○お子さんへの関わり方のこと

相談日・時間

月曜日～金曜日 9時～16時
(ただし、祝日と年末年始を除きます。)

相談方法

電話 [来所]*
* 県立教育センター (東広島市)
* 東広島市については、電話でお申し込みください。

連絡先

082-428-1188 (直通)

ホームページ

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/educen/taidou-jigyo.html>

相談窓口

こころのライン相談@広島県

学校のこと、家庭のこと、仕事のことなど、色々なことをLINEのチャット機能で相談できます。
○学校のこと
○家庭のこと
○仕事のこと など

相談日・時間

火曜日・木曜日・土曜日・日曜日
17時～22時

相談方法

LINEのチャット機能

連絡先

友だち追加

ホームページ

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/taidou/2023.html>
こころのライン相談 広島県

相談窓口

不登校に関するお住まいの地域の相談窓口一覧

文部科学省のウェブサイトから、お住まいの地域にある教育支援センターや教育相談コーナー、お子さんの悩みに関する相談窓口などを調べることができます。

ホームページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/shoten/taishoudou/chugaku_jihokoku.html

相談窓口

いじめなどの悩みに関する相談窓口一覧

広島県教育委員会のホームページに、いじめなどの相談窓口を掲載しています。

ホームページ

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/tutoukou-soudan-kanikan-index.html>

問い合わせ先

個別最適な学び担当
不登校支援センター
082-228-3500

相談ガイドは広島県教育委員会のHPにも掲載しています。
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/tutoukou-soudan-guidebook.html>

広島県教育委員会

不登校等児童生徒支援
相談ガイド

周りの大人がお子さんと
どのようにかわっていけばよいのかを
一緒に考える際に活用できるガイドブックです。

何かできること
はない…?

学校に
行きたがらない…

このままで
いいの…?

こんなお悩みありませんか？

学校に行きたくない…

学校に行きたくない理由を聞いてもいい？

無理にでも学校に行かせた方がいいの？

そうなんだね。

お子さんが話せることをゆっくり聴いてみましょう。ご家庭以外にも、安全で、安心して過ごせる場所がないか、学校に相談してみるのもいいかもしれません。

心配な状態が続いている…。このままでいいの…？

家にいても退屈したり、眠ったり、甘えたり…どうすればいい？

勉強や作業のことも心配…

〇〇の、どんなところが好きなの？

お子さんのペースを大切にしながら過ごしてみましょう。時には一緒に活動し、思いや感情を共有する時間をもてるといいですね。

外に気持ちが向いてきたみたい。何かできることはない…？

前向きな言葉を言うようになった！ 登校をすすめていい？

自分の気持ちを話してくれるようになった！ どんどん背中を押していい？

相談機関や学びの場に着いてほしい…

〇〇しに、行ってみる？

心と身体のエネルギーが回復してくると、意欲的な姿が見えるようになります。お子さんの好きなことに誘うなど、声かけをしてみるのもいいかもしれません。

寄り添う対話で接してみましょう

お子さんのペースを大切にしながら

心と身体のエネルギーが回復してくると

外出することが難しい

SC(スクールカウンセラー)などの専門家に相談することもできます

SC(スクールカウンセラー)

お子さんの心のケアや、ストレスへの対処法心理の専門家で、教育委員会から学校などに派遣又は配置される方です。公認心理師や臨床心理士などの資格を持っている方が多いです。

学校以外の場所には外出している

校外教育支援センター

教育委員会が設置する、校外においてもお子さんが安心して生活し、学習に取り組める場所です。体験的な学習を行うほか、保護者の方からの相談対応、保護者同士がつながるイベントの開催などを行っている校外教育支援センターもあります。

SCHOOL "S"

広島県に住んでいる不登校などの小中学生を支援する県の教育支援センターです。来室での利用、オンラインでの利用ができます。

来室による利用

オンラインによる利用

広島県の連携状況はこちら

登校している

相談しやすい先生にご相談ください

- 学級担任の先生
- 部活動の顧問の先生
- 生徒指導の先生(生徒指導主事など)
- 同じ学年の先生
- 保健室の先生(養護教諭)
- 校長先生・教頭先生 など

自宅などからつながる学びの場

自宅などからでも、ICT端末を活用して、オンライン上でチャットや会話をしたり、ウェブ会議システムを活用して一緒に学習したりすることで、コミュニケーションや学びをつなげることができます。

校内教育支援センター SSR(スペシャルサポートルーム)

学校内の落ち着いた環境の中で、お子さんの状況に応じて、お子さんに合ったペースや方法で学習できる場所です。自分のクラスに行きづらい、集団での学習に不安があるといった場合でも、安心して学校生活が送れるようサポートしています。

不登校等児童生徒相談ガイド

[【行き渋りや不登校のお子さんを支える保護者の方へ】広島県内の居場所・相談窓口ご案内 - 個別最適な学び担当 | 広島県教育委員会](#)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/futo-ukousoudanguidebook.html>

